

福島県PTA連合会会報
第34号_H04.11.20

大会主題

——心豊かな子供の育成を目指すPTA活動——

福島市黒岩字田部屋53-5
 島島青少部会館内
 福島県PTA連合会
 電話0245(45)5982
 発行人 櫻井和朋
 印刷 泉孔印刷所
 電話57-1071

多大な成果を収めた

福島大会

第二十四回東北PTA研究大会
 第四十一回福島県PTA研究大会終わる

「心豊かでたくましい子供の育成を目指すPTA活動の推進」を大会主題に掲げ、県下、そして東北各地から二千七百余名の会員参加のもと、い出湯とくだもの里福島において、第二十四回東北PTA研究大会、第四十一回福島県PTA研究大会が、九月四日・五日の両日にわたって開催された。

第一日は、受付後、午後直ちに七つの分科会に分かれ活発な研究協議が行われた。

二日目は、桜井和朋東北PTA会長・県PTA会長より、「この大会の

成果が、各単位PTAの新たな推力となり、一層活力あふれるPTA活動が東北各地で展開されるよう期待する。」との挨拶があり、続いて長年にわたるPTAへの功労者団体について感謝状、表彰状の贈呈が行われた。記念講演は、静岡県掛川市長榛村純一氏が、「生活大国と生涯学習社会」と題し感銘深い話をされた。(講演内容は、四ページに掲載)



「県連P前副会長」

輝く受賞者

平成四年度東北連P・県連P会長より感謝状、表彰状を受賞された方々のご芳名。

◇東北連P会長より

△表彰状▽

- 福島市立佐原小PTA
- 同 東湯野小PTA
- 郡山市立開成小PTA
- 白河市立関辺小PTA
- 若松市立第三中PTA
- 猪苗代町立山瀉小PTA
- 広野町立広野中PTA
- ほか個人十名。

△感謝状▽

「県連P前副会長」

- 国分敏夫 中村幸吉
- 平山恒雄 加藤貞夫
- 戸田満夫

「県連P前監事」

二瓶孝夫

「県連P前理事」

- 吉田一政 樋口克美
- 大金昌仁 遠藤光昭
- 田中武昭 慶徳幸廣
- 国分 悟 兼子美智子
- 荒井美枝子

「各地区前事務局長」

- 菅野信一 遠藤修三
- 小沼利久 村越 博
- 上遠野盛雄 橋間 博
- 松田守弘 寺島康信
- 引地善美 佐藤啓二
- 矢澤喜八 古川仁志
- 遠藤 嵩 佐藤信二
- 中澤 満

△表彰状▽

- 福島市立三河台小PTA
- 同 東湯野小PTA
- 同 佐原小PTA
- 同 佐倉小PTA
- 福島大学附属小PTA
- 福島市立松陵中PTA
- 国見町立県北中PTA
- 東和町立木幡一小PTA
- 同 針道小PTA
- 岩代町立新殿小PTA
- 二本松市立塩沢小PTA
- 大玉村立玉井小PTA
- 本宮町立本宮一中PTA
- 白沢村立和田小PTA

「県連P安全互助会表彰」

- 福島市小中P、達南P、伊達地区P、安達地方小中P、石川地方連P、田村郡P、西白河郡P、東白川郡P、以下六P

第一分科会

「意識を新たにしてPTA活動の活性化を図る組織運営を進めよう。」

仙台市立金剛沢小PTAからは、「忙しい中で共に羽ばたくPTAにしていこう」という提言がされました。

今は、多くの母親が、家事、育児、仕事、社会活動など、多面的な役割を担っているのに、PTA活動に積極的にかかわることは、かなり難しいので、「できる時にできることをしましょう」と呼びかけ、PTA活動の活性化を図っているということでした。

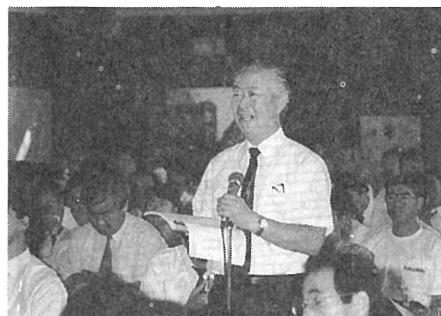
分科会報告

郡山市立湖南中PTAからは、各地区より選出される副会長4人の活躍が、広い学区のまとまりや地区PTA活動の活性化に有効に機能している

るといふ組織運営の工夫が提言されました。

PTAの会長も専門委員会の委員長、副委員長も地区輪番制で、PTA活動を会員全員のものにする工夫をしているということでした。

このような二つの提言をもとに、役員選出方法の改善、父親参加の呼びかけ、親睦を深める懇親会の持ち方、親と教師の相互理解、本音で話し合える自分たちのPTA活動、母親中心の会運営の問題点を話し合いました。これに対し、特別な試みよりも無理のない努力の積み重ねの重要性をご助言いただきました。



第二分科会

「子供の理解を深め生涯学習の視点に立ってPTAの研修活動を進めよう。」

宮城県津山町立柳津小PTAからは、今年で12回目を迎えた「子供の教育を考える会」の実践について報告され、「低中高三分科会による研究討議」の実効性について提言された。

一月の第三日曜日に実施し、授業参観のあと、「子供のしつけと親の役割」をメインテーマとして話し合い、まとめの講演を聞く日程で進めているということでした。白河市立白河中央PTAからは、教養部が中心となって推進している「家庭教育学級」を核としてPTA会員の輪を広げている生涯学習の視点に立った研修活動について提言された。

教養部員自らによる企画運営のため、前年度の反省も具体的で、活動の充実と相まって親睦も深まっていますということでした。このような二つの提言

をもとに、学校週五日制への対応、公的補助と研修活動のかかわり、クラス単位のPTA活動のあり方、生涯学習とPTA活動などについて話し合いました。

これに対し、研修活動とは、「聞く事」「話す事」「行う事」で、生涯学習システムとして、創造性を持ち、地域の中に広がっていくことが特に大切であることをご助言いただいた。

地区PTA活動の充実、よいものを残しながらの新しい試み、視点を交えた活動など、生涯学習の一翼としてとらえられた。



第三分科会

「健全な心身を育てるPTA活動を進めよう。」

岩手県江刺市立江刺一中PTAからは、「PTAと生徒会をつくる教育環境」について、普段の生活態度の向上こそが目指すべきものだという提言がされました。

生徒・父母・教師が一体となって、体育祭、地区懇談会、地区対抗親善バレーボール大会、学校週五日制学習会など、積極的に取り組んでいるということでした。いわき市立泉小PTAからは、地区の教育、文化、経済、福祉などの相互理解を密にして確実に活動していくことが大切であるという提言がされました。PTA活動の地域への広がりです。

非行の低年齢化、核家族化による家庭機能の低下、価値感の多様化など、子供の健全育成を阻害する具体的な問題についても指摘されました。このような二つの提言をもとに、小・中学生の行事参加への差異、「我が校も実は荒れた」と話された共通意識、中学生の問題の小学生時代からの芽、奉仕作業を通じた親子のふれあい、地区懇親会における少数意見の吸い上げなどについて話し合いました。

これに対し、大きく二点についてご助言をいただきました。

一つは、地区の教育環境を整備して、学校とPTAが一体となって情報環境と人間環境について研修すること。

もう一つは、親子が地域との連携を深めることによって推進すること。



福島大会

第四分科会

「家庭と
小学校教
育。」

秋田県能
代市立第五
小PTAか

らは、親自
身が望まし
い姿を子供
たちに示す
ことこそが
大切なこと
だと提言され
ました。

力のあり方を根本から見
直し、特に父母と教師の
密な連携が大切であると
強調されました。

このような二つの提言
をもとに、地域とのかか
わり方、学校の週五日制
役員選出と協力関係につ
いて話し合いが進められ
ました。

その中で、地域性や学
校規模による運営の差異
学校行事の見直し、父親
参加への工夫対応などに
関心が集まりました。

これに対し、親自身の
生き方こそが大切である
とご助言いただきました。

岩代町立新殿小PTA
からは、地域全体で子供
たちを見守り育てていく
ことの重要性が増してき
たと提言されました。



第五分科会

「家庭と
中学校教育。」

五所川原市立五所川原
四中PTAからは、温か
い人間関係の家庭、目標
を持たせる努力、リズム
の整った生活、正しい判
断力の育成、学校とPTA
活動の連携が、基本的
に大切にしなければなら
ないものだという提言が
されました。

心身の成長、発達、変
化の最も大きく不安定な
時期なので、非常に難し
いと感じているが、前述
のようなことを、日常特
に心掛けていっているとい
うことでした。

相馬市立中村二中PTA
からは、「心の教育を
志向するPTA活動の推
進」というテーマを、各
委員会に共有することに
よって、理解と連携、協
力を目指すPTA活動が
いっそう充実してくと
いう提言がされました。

価値観が多様化してい
く一方で、自我の形成が
遅れ、自立心や思いやりの
心が欠如し、心のふれ
あいや連帯感の意識が希



薄化し、生徒の心身にも
さまざまな変容がみられ
るようになってきたこと
を指摘していました。

このような二つの提言
をもとに、地区懇親会、
地域ぐるみの生徒指導、
運動会、武道教育などに
ついて話し合いました。

その中で、親同士の親
睦、話し合い結果の重視、
清掃活動への積極的な参
加、親子のふれあいなど
に議論が集中しました。

これに対し、子供自身
に意志決定の機会を与え
ることと父母と教師の認
めあいの大切さをご助言
いただきました。

第六分科会

「心身に障害をもつ子
供の理解を深めるPTA
活動を進めよう。」

米沢市立興醸小PTA
からは、「特別」にしな
い特別な配慮こそが一番
大事であるという提言が
されました。

幼い年齢の子供であれ
ばあるほど、心身の障害
の有無に関係なく対等に
受け入れて心を通わせる
ことができ、できるだけ
自然な形でお互いに接す
る場を設定するだけのほ
うがよいということとし
ました。

喜多方市立一中PTA
からは、心身に障害を持
つ子供の生涯にわたる支
えの一助となり、生きる
日の最後の日まで、地道
に活動していくことが大
切であるという提言がさ
れました。

体制や方法を問われて
も答えることは難しいの
で、一つ一つの課題に誠
実にその場その場でアプ
ローチしていくことが大
切であるということとし
ました。

このような二つの提言



をもとに、心身に障害を
持つ子供の理解を深める
ために熱心な話し合いが
行われました。

PTAや学級担任が学
校に望むこと、振興会の
人数と会費、身障者の卒
業後の積立、健常者との
交流、医療面や臨応心理
面からの授産施設など、
真剣さにあふれる話し合
いでした。

これに対し、より多く
の交流の機会を作って直
接ふれあいの体験を持ち、
健常者と障害者の相互理
解を深めることが必要で
あることをご助言いただ
きました。時期の差はあ
れ避けられない課題です。

第七分科会

「学校週五日制を考えたよう。」

群馬県太田市立烏之郷小学校とPTAからは、自ら考え主体的に活動する子供を育てる学校週五日制の推進について、実施の状況や課題を伺いました。

PTAとしては、学校週五日制特別委員会を設置して、趣旨が具現するように活動しているということでした。

学校週五日制実施にともない課題を洗い出し、一つ一つ具体的な対処を協議し、遊びながら学べる地域づくりに努力しているということでした。

同じ地域の群馬県太田市立西中学校とPTAからは、学校週五日制にともない新しい学校経営とPTA活動について伺いました。

毎月第二・第四土曜日が休業日となり、家庭での過ごし方、地域行事への参加のし方、親子参加の催し物企画などについて、さまざまな試行をしているそうです。



このような二校からの話題提供を受けて、活発な話し合いが展開されました。

準備不十分な状況への不安、学校外活動の実際、家庭での親子のかかわり、授業時数の確保、学校行事の見直し、共働き家庭への行政上の対応に関心と不安が集中しました。ご助言は、特に福島県教育庁担当指導主事においてお願いを申し上げました。地域活動への参加や家庭のゆとりがみられ、不登校児の減少もみられるようになったということです。

「生活大国と生涯学習社会」

記念講演

私は全国に話しに行く

時に、どこでも言っている事ですが、…向都離村の教育」、東京へ行って成功しよう、青雲の志をいだいて上京し、ふるさとにいつの日にか帰らんとするのは、一人か十万人に一人の成功者がふるさとに帰って思うこと。このような考え方ですか

ら、村社会・地域社会をのり越えて都で成功するというパターンです。そうじゃなくて、どこでも誇り高く生きる事がないと、地域の生涯教育は成り立たないんじゃないか

学校教育は、地域と両親を乗り越えた、極端に言うところでは、東京へ出て行って成功しよう。学歴をつけて成功しよう、そういうことになる訳で、ある意味では、地域と両親を否定してやってきた。これからは、地域と両親を尊敬する教育に変わらなければいけない。また、



一つは、開発か保護かの問題。自然保護か都市化か、緑と自然だけではめしは食えない。

二つ目は、勤労と余暇の問題。これからは、余暇をつくって遊ばなければならぬ。だけど、そんなことをしてはうちの会社はもたない。

三つ目は、学歴社会をやめて生涯学習社会にならないと週五日制の展望はないのではないかと思

っている。現在は、総論と各論とが非常に分裂している。総論賛成、各論反対があまりに多い。その中で、

五大分裂症、五つのテーマで大きく分裂しているのがある。五つ目は、経済と道徳の問題。人間は、お金の盲者、道徳門だけぐっでは、お説教主義になっただめ……。以上総論、各論の点から具体的に現在の社会の世相について話された。また、お手元の資料で話します、と前おきされ

点一その一つ、兼業農家、農家は、農園つき快適者であるという新しい文化的意義づけをする。

○ 地域学事始一わが町を楽しく語らいる市民、統計を面白く加工して新お国自慢づくりをする。これしか文化(ここしか、今しか、これしか)をつくるのが即生涯学習である。

○ 個人における生涯学習の必要性一五つ(高齢化、自由時間、技術革新、学歴社会改革、国際化)の社会現象にそれぞれ対応する人生設計に努力する。

○ 生涯かけて文化人になる一一人一芸：スポーツ。一人一業：ボランティア。一人一役：健康法

○ 女子は半天を支える一世の発展の鍵を女性が握っている。女性行政委員の多用、女性職員の活性化を図れ。

○ 生涯学習運動の三つの原則一①やりたい人が楽しくやる。②やりたくない人に強制しない。③やりたい人の足を引張らない。等々……。時間を忘れさせる一時間半に渡る講演であった。

東北・福島県大会

原町三小PTA会長

寺島 岩男

県・東北PTA研究会大会が、いでゆの町飯坂で東北各地より、二千五百余名の会員参加のもと盛大に開催された。大分より橋本日P会長を迎えてのレセプション、前向きな姿勢で議論を交した七つの分科会、榛村掛川市長の基調講演と、予定された行事が次ぎ次ぎと捲られていく。

中でも橋本日P会長との初対面で交した名刺の表書きに「親が変われば子が変わる PTAが変われば社会が変わる」と言う自分の信念を訴えるスローガンは、PTA活動の基本を浮き彫りにする確かな位置づけが刻まれていた。明日という未来の為に今こそ私達が本気で未来に向けた人づくりに取り組まなければ、胸をはって二十一世紀をむかえる事は出来ないだろうと、交した握手に力がこもる。私達親にとって、当り前の事ではあるが、子供

PTA研究大会に出席して

日P母親委員会

県母親代表
二瓶由美子

女性の社会参加が国際的なうねりとなった時代

を背景とし、母親の声を組織に反映しようと、日PPTA全国協議会に母親委員会が設置され活動してきたわけですが、その位置づけはまだまだ補足的で、男女共同参画型社会の実現から言えばほど遠いものがあります。日P母親委員会の歴代のメンバーは、そうした現実の中で、この会の目的の達成のため、学習と研修を深め、情報交換をし、様々な教育的課題の解決のための大きな力に

達未来を信じ未来に向けてゆとりある道筋を広げてあげる事が、今最も大事な時代だ、と思う心に拍車がかかる。私達が未来をたくす、子供達の夢とは、理想であり、創造であり、目的である。

なれるよう努力を続けてきました。幸いなことに、先頃の日P常任幹事会では、母親委員会に対する多大な御理解が寄せられ、心強くも嬉しくも思いました。同時に、母親の立場から「五日制と学力」「出生率低下」に対する調査や見識も求められました。更に学習して、御期待に応える力を備えた委員会にしていきたいと、委員長を引き受けた身として自覚を深めています。また、日Pでの動きを東北Pへ伝え、各県Pに流し、各都市連P・各単Pの母親委員の自覚を高める努力もしていかなければなりません。本県PTA連合会においても、理事の皆様、母親委員会への御理解を深めていただけるよう、心より願っています。

全国・群馬大会

古道小PTA会長

村越 寿夫

第四十回日本PTA研究会大会群馬大会は全国か

ら一万名の会員参加のもとの八月二十日二十一日の両日群馬県前橋市を中心に各市で開催されました。十の分科会に特別分科会の合計十一の分科会での大会でした。私は週休二日制をテーマにした特別分科会に参加をして参りました。前回の高知大会では、子供達が週休二日制をどう考えているかについての研究テーマで話し合われたようでしたが、今回は親・地域の立場から週休二日制をどう考えたら良いのかについて研究討議が本県連P会長の桜井会長の基調報告で行われました。全国大会の参加が今回、はじめてでしたので、町村・郡市連Pの研究大会とどうちがうのかについても考えながら参加してきましたが、大会の規模、運営のありかたのちがいはありましたが、全国どここのPTAでも、かかえる悩みや問題は同じである事を思いながらの参加でした。地域的に問題の内容に違いはありますが基本的に変わりはないようです。そんな中で私達もふくめて、これだけ多くの会員

参加のあるPTAが総力を結集すればどんな問題も解決出来る力強さを、あらためて知った大会への参加でもありました。

大会事務局から

「三〇〇〇人大会」を想定して、東北PTA研究会大会を構想し、大会準備を進めてきました。

大会準備の過程で、いくつか記録に残しておきたい大会事務局の心労もありました。

大会テーマをどうしようかということも、その一つでした。

学校週五日制、家庭・地域二日制の実施の年でもあり、PTA活動の大きな曲がり角に立って、「PTAの教育力」について考え抜き、大会テーマが定まりました。日Pの会報から得るところが大変多くありました。

記念講演の講師についても、不安な日々を過ごすことがありました。

早々と内諾をいただいた細川護熙様から、突然「四月以降の講演は

一切取り止めにしたい。」というご連絡があり、大変にあわてました。今にして思えば、新党結成にふみ切られた時期だったのでしよう。

県連P事務局の皆様から、懇切なご助言と多くのご援助をいただき、福島市連Pの皆様から、深いご理解と献身的なご協力をいただき、大会を終えることができました。

万感を込めて大会を振り返り、深謝の言葉もなほいほどの思いであります。



《福島》 家庭・学校 地域ぐるみの協力推進

福島市立東湯野小学校PTA

本校は、全国的にも有名なお湯の町、飯坂温泉から約三キロ東に位置し、モモ、リンゴ、ブドウ等の果樹園に囲まれ、南に摺上川が流れるという自然環境に恵まれています。創立は明治八年で、今年十月で、百十八年の歴史と伝統を誇っています。市街化調整区域、純農村地帯という土地柄のため、自由に住宅が建てられず、転入者が少ないと

昭和五十八年に鉄筋三階建ての立派な校舎が新築されてからは、PTA会員は元より、地域ぐるみでそれまで以上に、校舎内外の環境整備、緑化に力を注ぎ取り組んでいます。



(親子レクリエーション)

本PTAでは、五つの専門委員会を置き、各委員会が中心となって諸活動を遂行しております。そのいくつかを御紹介いたします。

▼教養委員会では、ベルマーク収集整理と教養講座開催、研修旅行計画実施等を担当、昨年度はベルマークでマーチングキーボード等を購入、教育設備の充実に努めています。

▼広報委員会では、年二回発行の「野ばら」に加え、今年度からは「速報

野ばら」を随時手書き発行し、親しみ易く楽しい記事を数多くと工夫しています。

▼補導委員会では、児童の安全を願い、危険箇所点検、交通教室協力、交通当番実施等、意欲的に活動しています。

▼厚生委員会では、親子のコミュニケーション、同士の親睦を図るべくレクリエーションの計画実施に活躍しています。

▼環境委員会では、廃品回収事業、奉仕作業を各々年二回ずつ実施、環境の美化、設備の充実のため、会員の先頭に立って活動しています。

以上は諸活動の一端ではありますが、今後児童の真の幸福、健全育成を願いつつ、家庭、学校、地域が三位一体となり、それらのパイプ役として貢献し、活動を推進していきたいと考えています。

× × ×

特色あるPTA活動

《伊達》

健やかな成長を願って

国見町立東北中学校PTA

本校は、鎌倉初期の源頼朝による奥州平泉攻めの古戦場で知られている阿津賀志山を背にし、前方南部には阿武隈川が流れ、極めて自然環境に恵まれた地にある。また、北方約四料の地は宮城県境であり、文字通りの県北中学校である。

我がPTAは、父母と教師が互いに協力し、生徒の健全な成長をはかると共に、会員相互の教養を高め、親睦と理解を深めることを目的に、楽しいPTA活動をめざして諸活動に取り組んでいる。



(環境整備活動)

◎専門委員会
五つの専門委員会があり、五人の副会長が各委員会の委員長を兼ねて事業を実施している。

③ 広報委員会、年三回PTA会報「柏葉」の発行を行い、会員相互の情報交換等による会員の教育への関心と高揚に一役を担っている。

④ 環境委員会、校舎周辺の樹木の防虫等の消毒をはじめ子供達ではできない作業を中心に実施し、教育環境の改善充実及び保全に努めている。

⑤ 補導委員会、町内の花火大会や祭礼時における補導や交通安全教室、自転車点検への協力等を実施し、生徒の健全育成に寄与している。

◎ 体育文化後援会
生徒の体育文化活動の奨励と向上をはかるため、本会の役員、部活の顧問の先生、そして部活生徒の父兄が役員となり、それぞれの部活において円滑な運営をはかっているところである。

そのほか、方部委員会、学年委員会、三学年の進路対策委員会があり、子供達の健やかな成長を願って全会員協力のもと『子供達の応援団』として活動を展開している。

× × ×

《西白河》

地域をあげてのPTA活動

白河市立関辺小学校父母と教師の会



(宿泊訓練での
野外炊飯)

本校は、白河市の中心から南湖公園を経て、南東へ約六キロメートルのところとあり、児童数二一一名、会員数一六七名の小規模校であるものの自然環境には恵まれ、広い校地には、芝桜、サツキ、カンナ、サルビア、菊と、春から秋にかけて花が絶えることがない緑豊かな学校である。

本校の目的である、児童の健全なる育成と福祉を図るため父母と教師が協力して学校、家庭、地域における教育環境の充実に努めると共に、会員相互の親睦を図り、教養を高めることを全員参加で取り組んでいる。

「学校のことは母親まかせ」という風潮が一般に高まっている中、男性が主導権を持ち、地域をあげて次のような活動に取り組む、大きな成果を上げている。

一、会員相互の親睦と教養を高める活動
家庭教育学級を開設し、教育講演会、エアロビクス教室等を実施し、お互いに研鑽を深めるようにしている。

二、校内宿泊訓練の援助活動
校庭南側にある野外活動場は、友情の丘と名付け、本会で整えた設備を利用し、野外炊飯を行い、夜は父母の協力で組み立てたキャンプファイヤーを多く

の学区民が楽しんでい

る。

三、もちつき大会協力
五月中旬に勤労生産学習の一環として田植えを行い、十一月

月に収穫祭としてもちつき大会を行っている。

四、アスレチック整備
昭和五十年に友情の丘にアスレチックを完成させ、十一年間無事故で活用している。整備、補修のため本会の会費の一部を積み立て修理に当てている。

その他、スケートリンク作りや敬老の方々による奉仕作業など側面から地域をあげての活動を行い、児童の健全な育成をめざし活動を進めている。

特色あるPTA活動

《耶麻》

健全育成とPTA活動

塩川町立塩川中学校PTA

東に磐梯山を眺め、北に飯豊連峰が雄大にそびえ、南に阿賀の大河が雄々と流れる。そんな環境の中にある、会津盆地のほぼ中央に位置する所に本校はあります。

東に磐梯山を眺め、北に飯豊連峰が雄大にそびえ、南に阿賀の大河が雄々と流れる。そんな環境の中にある、会津盆地のほぼ中央に位置する所に本校はあります。

会津若松市と喜多方市の中間にあつて歴史と観光を両手にかかえる町でもあります。

人口一万余の町で生徒数約五〇〇名、会員数は約四〇〇名で創立三十五年の学校です。

現在の会員の多くは丁度創立時の生徒であり、懐かしさと同時に二世代目と云う事で新しい歴史を築こうと云う息吹きに満ちあふれています。

さて本校PTAには、四つの地区委員会と六つ

の専門委員会、そして三つの学年委員会から組織されています。

それぞれの委員会にあつては特色ある適任の活動をしているわけですが、その内容は他校PTAとさしたる大きな変化はないと思います。但云える事は、どの委員会に於いても参加者が多いと云う事は自慢出来る事です。



(施設充実のための
廃品回収)

社会様式が複雑化している昨今にあつて多忙の時間を調整し参加する会員はPTAと学校、あるいは家庭と学校と社会とが一致協力してこそ生徒の健全育成につながる事の重要性を認識しているものと思います。

もうひとつお知らせしたい事があります。三年前からではありませんが、生徒八名づつがイギリスへ毎年ホームステイをしています。二週間の間それぞれの家庭に入り、イギリスの歴史や言葉を勉強し、更に現地の学校で授業を受けコミュニケーションを図り、草の根大使の役を立派に課しています。

また、近年中にはイギリスからも生徒を招き、交換留学制度まで話しが盛り上がっています。

これが、文化と人材育成がモットーの当町にあつて最も重要な事として関心となっています。

本校生のモットーは、「さわやかな塩中生」であり、生徒のみならず親も先生もそして町民も、実にさわやかに感じている言葉です。

県PTA安全互助会だより

万一の場合に備えて……

手術・付添看護給付金が追加

—平成四年六月一日から—

平成四年六月一日から当安全互助会の入院治療、通院治療給付金のほかに次のようなものが追加されます。

一、手術給付金

入院給付金が支払われる場合で、一八〇日以内に、そのけがの治療のために手術を受けた時は、手術の種類に応じて、入院給付金日額に所定の倍率（十〜四十倍）を乗じた額が支払われます。対象となる主な手術は、アキレス腱切断などです。

例1 学童が自転車走行中転倒し、左肘を骨折し、八日入院、二〇日通院治療した。

入院	8,000円 (1,000円×8日)
通院	13,000円 (650円×20日)
手術	10,000円 (1,000円×10倍)
給付金	31,000円

例2 PTA会員が、PTA球技大会で左アキレス腱断裂のため、三二日入院、四日通院治療した。

入院	96,000円 (3,000円×32日)
通院	8,000円 (2,000円×4日)
手術	30,000円 (3,000円×10日)
給付金	134,000円

<PTA会員>

二、付添看護給付金

入院給付金が支払われる場合で、症状が重く、看護人の常時監視を要する状態と医師が認め、職業付添い人を雇い入れた時は、その日数に対し、事故日から一八〇日を限度として、一日につき、入院給付金の五〇%が支払われます。

例 学童が傷害事故で入院し、症状が重く絶対安静が必要なため、医師より一〇日間の付添人の指示がなされ、職業付添人を雇い入れ、五〇日間入院、二〇日間通院治療した。

より一〇日間の付添人の指示がなされ、職業付添人を雇い入れ、五〇日間入院、二〇日間通院治療した。

入院	50,000円 (1,000円×50日)
通院	13,000円 (650円×20日)
付添看護	5,000円 (1,000円×50%×10日)
給付金	68,000円

<Aコースの場合>
詳しくは、事務局までお問い合わせください。

おねがい

見舞金請求書の振込先口座記入について、金融機関の支所名、口座名義は必ず通帳をご確認の上通帳のとおりご記入ください。

学童・PTAの賠償事故が発生しましたら、くわしく状況を把握して、本会事務局まで、ご連絡ください。請求書類を送りいたします。

第16回子ども災害事故防止習字・ポスター募集

今年も、子どもの災害事故防止習字とポスターを募集します。多数の応募を期待しております。

▼対象

福島県内小・中学生

▼応募規定

募集要項参照
(十一月配布)

▼応募締切

平成五年一月三十日

▼提出先

福島県PTA連合会

第28回「福島県小・中学校新聞コンクール」のご案内

▼対象

県下小・中学校の新聞または、PTAで発行する新聞で、本年一月以降発行したもの。

▼応募方法

発行回数ごとに各一部を平成四年十二月十二日まで、〒960 福島市柳町四一・二九 福島民友新聞社会事業部「新聞コンクール係」へ送ってください。

▼表彰
学校新聞の部、PTA新聞の部別に審査し、表彰いたします。

※PTA新聞の優秀作品は、「全国小中学校PTA広報紙コンクール」に出品します。

学校週五日制に関する情報提供のお願い

さる九月、第二土曜日休業日がスタートしました。県教委の調査では、家族と共に過ごした児童が六四%とトップを占めました。

逆に考えると家庭の関心の高さを感ぜさせられました。一方、学校で過ごした児童が四%という実態も明らかになりました。今後の推移はいかががでありましょうか。そして、皆様のPTA、また、地区の取組みはいかがだったでしょうか。継続させる活動として「子供自ら参加しての自助活動」あるいは「地域の活性化」等をふまえての皆様取り組みについて、事例のご提供をぜひお願いいたします。

編集後記

▼会報第34号をお届けします。

▼福島大会は、天候にも恵まれ、新築まもない飯坂観光会館をメイン会場とし、大会事務局の綿密な計画と準備、そして、実行委員各位の献身的な働きによりとどこおりなく進められた。

次期開催地区仙台市小中学校PTA代表、そして相馬地区PTA代表の挨拶と多彩な呼びかけにより、次年度の再会を約束し盛会のうちに二日間の大会の幕を閉じた。

▼多大な成果をあげた大会運営に対し敬意を表します。

▼第四十一回県大会として、また、東北大会として、また、東北大会として、本会報のため多くの原稿・写真を届けて下さった大会事務局、そして、多忙な皆様方からの原稿等の送付に深く感謝いたします。

▼学校週五日制も実施され、新しい学校教育のスタートの年です。「主役はPTA」の自確のもと各単Pのいっそうの活躍を期待します。